

研究・調査報告書

報告書番号	担当
224	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Global burden of disease from alcohol, illicit drugs and tobacco. アルコール・違法ドラッグ・タバコによる全世界での社会的疾病負担	
執筆者	
Rehm J, Taylor B, Room R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Rev. 2006 Nov;25(6):503-13. Review.	
キーワード	
アルコール、タバコ、違法ドラッグ、社会的疾病負担、障害調整生命年	
要 旨	
<p>アルコール・タバコ・違法ドラッグの使用は大きな社会的疾病負担を生じる。2000年の資料によって障害調整生命年 (DALY; disability-adjusted life-years) の概念で評価した社会的疾病負担のうち、4%はアルコール、4%はタバコ、0.8%は違法ドラッグによると思われた。この評価はこれらの薬物の疾病予防効果も考慮した実質的な負担である。開発国で主要25薬物の影響を比較すると、タバコが最も大きな損失を生じており、特に高齢者群ではタバコによる死亡リスクが最も高かった。また、アルコールは開発国でも重要であったが、経済新興国群においては他の物質と比べて最重要の危険因子になっていた。アルコールはタバコと比較して、罹患・死亡の何れにおいても若年層により大きな影響を与えていた。違法ドラッグよりも合法ドラッグの社会的疾病負担の方が著明に大きかった。薬物による社会的疾病負担の多くの部分は既知の有効な介入によって予防可能であったと思われた。</p>	